

Sphere Project セミナーを開催しました(2013/12/6)

場所：東北大学加齢医学研究所プロジェクト総合研究棟(仙台市)

テーマ：「災害時における保健医療アセスメント Sphere Project（人道憲章と人道対応の基準）を学ぶ」

12月6日（金）に東北大学加齢医学研究所 4 階会議室において、災害医療国際協力学分野の大学院生(横浜市立大学特任助教)児玉光也氏による Sphere Project セミナーを開催しました。Sphere プロジェクトとは、1997 年から国際赤十字・赤新月連盟や人道支援に関わる非政府組織(NGO)が中心となって、災害や紛争などにおける人道支援の活動の明確な基準として作られているものです。セミナーでは日本語訳された無料のスフィア・ハンドブックがテキストとして配布され、中心となる人道憲章の考え方や、コア基準（総論）および、具体的な食糧、水、保健、住環境などのテクニカルチャプター（各論）について児玉氏が今年 8 月に東京で開催された Training of Trainers (TOT: わが国では 2 回目、英語で 6 日間)を受講した成果と、これまでの政府機関、NGO での活動を通して得られた経験にもとづいて講演されました。

Sphere は、どこでも、いかなるときにも適用される権利保護の原則として **A**. 自らの行動の結果として人々をさらなる危害に曝さないようにすること、**B**. 公平な援助への人々のアクセスを確保すること、**C**. 暴力や抑圧による身体的・心理的な危害から人々を保護すること、**D**. 権利主張、救済手段へのアクセス、虐待からの回復について支援すること、という人道憲章の考え方を世界中に広めることも目的のひとつです。コア基準は①人々を中心とした人道支援、②調整と共同、③事前評価、④設計と対応、⑤成果、透明性と学習、⑥援助職員の成果からなっています。具体的な数値が一人歩きしがちですが、国や地域、個々の状況に応じて質的な基準を達成することが大切です。

リーディング大学院や災害医学部門からの参加もあり、東日本大震災やフィリピンの台風ハイアン災害での意義、政府や NGO が共同して行動するクラスターアプローチのあり方などに関して活発な討論がなされました。また、災害科学国際研究所の特性を活かしてわが国独自の Sphere として活用していくための道筋についても議論がなされました。



児玉光也氏



活発な討論

文責：江川新一（災害医学研究部門）